

B 個別学習 (B4)

主な学習活動

楽譜から曲の情報を読み取り、小節数、拍子、速度等の設定を考え、創作活動を行う。

1 本時のねらい

楽譜から読み取った小節数、拍子、速度等を基に、音楽づくりをすることができる。

2 主に活用したICT機器・コンテンツ等

GarageBand

電子黒板

3 参考にしてほしいポイント

個々の活動を円滑に進めるため、活動の手順や方法の説明は、教師側のタブレットをプロジェクタから投影することで、生徒自身が確認しながら活動することができる。

段階 場面	主な学習活動	ICT機器活用のポイント
展開	楽譜から曲の情報を読み取り、小節数、拍子、速度等の設定を考え、創作活動を行う。	(プロジェクタ) 教師のタブレットの画面をプロジェクタで投影することで、全員で画面の情報を共有することができ、理解力が深まる活動となる。 (GarageBand) コンピュータで音符を入力する方法を提示することにより、演奏技術に左右されることなく、生徒が選んだ方法でアレンジができるようになる。

タブレット

+

プロジェクタ



一人一人個々の課題に取り組んでいる様子



プロジェクタで投影しながら活動することで理解を深める。

4 活用効果

「弾く」と「コンピュータで入力する」の2通りの入力方法を提示したことで、個々の選択により活動することができた。同時に小節数、拍子、調号、速度、音の重なりなども理解することができていた。「楽しい」という声とともに、「できた」「分かった」という声も多く聞くことができ、器楽の演奏に苦手意識のある生徒にとって興味・関心を高める手立てとなった。

5 アドバイザーからのコメント

一斉指導と個の学びをうまく組み合わせた実践であり、とても優れています。一斉指導は基礎基本を伝えることでは必須ですし、個の学びでは個の特性や能力に応じて学ぶことができます。つまり、同じ学び方ではないことを保証しますが、そのために1人1台端末が活かされます。(東京工業大学 赤堀侃司)

GarageBandは音楽制作に必要とされる基本的機能が揃っており、試行錯誤の中で音楽づくりに関わる知識・技能を修得するには適した環境と言えます。楽器演奏が苦手であっても創作活動を行うことが可能であるため、個別最適な学びを支えることができそうです。(福島大学 平中宏典)